

第11回兔原祭&ホームカミングデイ開催!!

去る5月19日(金)、20日(土)、11回目の兔原祭が開催されました。1日目は生憎の雨模様でしたが、2日目は晴天に恵まれ、多くの保護者や卒業生が学校に足を運びました。また、昨年度から倍増させた一般来場者の予約枠もほとんど埋まり、合計の来場者数が5000人を超える大盛況の2日間となりました。



生徒による企画は今年も工夫に富むものばかりで、トロッコに乗って恐竜の世界を旅する『ダイナソーランド』や教室でのお化け屋敷には絶え間なく行列ができていました。また、小学生の来場者が楽しそうにクイズ企画やPC部のゲーム展示に参加していたり、文化部の発表や演劇ではアリーナの大半の席が埋まるなど、多くの

来場者が中等生の有り余るパワーに圧倒されていたように思います。

さらに、今回はうばらサークルの読書会やPTAの皆様による物販のほか、父会による4年ぶりの食販『Oyajji's キッチン』の出店もありました。既にお子さまが卒業されている父親の方々も押しかけており、多くの関係者の溢れる「附属愛」が凝縮された素晴らしい兔原祭となりました。

兔原祭実行委員長より

第11回兔原祭は「継承」を軸として取り組んできました。継承というのはただ単に立ち止まる訳でもなく、もちろん無闇に変化を追い求めるものでもありません。第11回兔原祭における継承とは残すべきこととそうでないことを見極め、現在の中等に合った形にしていくことです。その中で過去の兔原祭で行われた生徒食販や屋外ステージでのバンド演奏を以前の記録を参考にしながら継承・再興させました。先輩方の資料を拝見する内に、「兔原祭」という歴史に対して込められた沢山の思いを感じ、より一層身の引き締まる思いとなりました。





もちろん継承だけで終わる第11回兔原祭ではありません。過去にはなかった生徒への写真提供や附属小学校生徒の招待にチャレンジし、未来の兔原祭へ継承する形で残すことも出来ました。今まで、そしてこれからも続いていく兔原祭の中で第11回兔原祭が「継承」の架け橋としての役割を果たせたことを大変光栄に思います。

これらの結果として沢山の来場者様をお迎えでき、楽しんでもらえたと思うと、兔原祭実行委員会としても冥利につきます。今まで継承されてきた兔原祭への感謝と今後の兔原祭のより一層の発展を願って、第11回兔原祭実行委員会からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(第11回兔原祭実行委員長 神山美優音)

今回の兔原祭では、同窓会で教室を1部屋借り、『ホームカミングデイ』を開催しました。卒業アルバムや過去の行事の映像を集めるなど、卒業生が思い出話に浸れるスペースを提供しました。初の試みではあったものの、100名近い卒業生が来場していただき、とても心温まる空間となりました。さらに、過去の卒業アルバムがあることを聞きつけた在校生も教室を訪れ、担任の先生の過去の写真を卒業生と一緒に見ながら学年の枠を超えた繋がりも深まっていました。

ご来場いただいた卒業生の皆様、ありがとうございました。また、多くの寄付をいただきましたこと、感謝申し上げます。さらに、今回は卒業生の有志の方々に企画の運営をお手伝いいただきました。この場を借りて改めてお礼申し上げます、ありがとうございました！来年も開催したいと思っていますので、よろしくお願いします。



ホームカミングデイを企画して

初めまして。中等8回生の三宅智佳です。第11回兔原祭の2日目、5月20日が初めての試みとなったホームカミングデイ企画に、運営メンバーとして携わらせていただきました。当日は、教室が狭く感じられるほどたくさんの卒業生や在校生、先生方にご来場いただき「思い出話で盛り上がる教室」という役割を果たせたのではないかと思います。この企画の初めの第一歩である第1回を、先生方のご協力をいただきながら素敵な先輩や後輩の皆さんと共に創り上げることができ、貴重な経験になりました。また同時に、卒業して様々な進路に進んでもこんなに沢山の卒業生が帰ってこられる中等っていいな、と感じました。

第11回兔原祭で行われていたたくさんの企画はどれも、その完成度の高さに驚かされるものばかりで



した。私自身、クラス企画の代表を務めさせていただいたことはありませんが、正直、当時ではとても辿り着くことのできなかった内容や美しさだと感じました。教室の前の看板一つをとっても、デザインから製作までとても丁寧にされていて、在校生の兔原祭への熱量がひしひしと伝わってきました。私たち8回生が1年生の時には秋の開催で、まだ手探りだった兔原祭が、コロナ禍も乗り越え、着実に、そして物凄いスピードでその質を高めていく姿は、勝手ながら誇らしく思っています。

卒業して2年目に入ったばかりの今でも、兔原祭を含め中等での経験の貴重さを実感することが毎日のようにあります。そんなかけがえのない環境にいる中等生が創造する来年以降の兔原祭も、卒業生であり1人の来場者として、今から楽しみでなりません。

最後になりましたが、ホームカミングデイ企画にご協力いただいた先生方、お越しくくださった全ての方々、本当にありがとうございました。

(中等8回生 三宅智佳)

～同窓会からのお知らせ～

■ 本広報誌に関するお問い合わせ：「あの先生/先輩の話を聴きたい」、「こんなトピックを取り上げて欲しい」などの要望や、本号を読んだ感想を下記のフォームにて受け付けます。どしどしご投稿ください。

■ (中等1回生の皆さんへ)：成人式以来の同窓会を年末年始頃に開催する方向で、現在計画を進めています！多くの1回生のご意見・ご要望を反映させたいと思いますので、Google フォームへのご回答よろしくをお願いします (URL：<https://forms.gle/eWidTeLJisiWbtW49>)。

学校 NEWS 短 信

5人の先生が離任される

尾野佑一郎先生は常勤講師に

2023年3月をもって、以下の5名の先生方が母校を離任されました。

▼離任された先生方

佐々木ひかる先生	非常勤講師に
村中 礼子 先生	兵庫県立長田高等学校へ
辻 常路 先生	川西市立明峰中学校へ
前田 岳大 先生	兵庫県立高砂高等学校へ
大西 風希 先生	兵庫県立伊川谷高等学校へ

附中60回生で2017年に着任された佐々木ひかる先生は、非常勤講師となり、代わって中等1回生の尾野佑一郎先生が音楽の常勤講師として着任されました。

また、育児休暇を取得されていた中川先生と、附属学校部に所属されていた木下先生が中等の職員室に戻られました。

課題研究合同発表会が開催される

4月13日(木)、全校生徒が参加する課題研究合同発表会が開催されました。2、3年生は代表グループが、4～6年生は個人発表を行い、大学の先生や校外の教育関係者の方々へも公開し、活気のある発表会になったようです。

オープンスクールに多くの小学生が訪れる

6月24日(土)、中等教育学校への入学を検討されている児童や保護者の方々向けに、オープンスクールが開催されました。当日は体験授業や校内見学、部活動の体験などが行われ、中等の魅力を感じてもらえる貴重な機会になったようです。

土井 麻里帆さん [中等2回生]

皆様、初めまして。そしてご無沙汰しております。中等教育学校2回生の土井麻里帆と申します。

5月20日(土)に、兔原祭に行ってまいりました。多くの方にお越しいただいており、大盛況でした。また、今回の兔原祭では、「ホームカミングデー」を企画いただいております。この場をお借りしまして、改めて企画・運営いただいた皆様に感謝申し上げます。また、当日お話ししてきた皆様も、ありがとうございました。

私事ですが、「兔原祭」という名称を決めた年に、実行委員長を務めさせていただいており、今回は当時のことを少し回想させていただきます。

当時は、中等教育学校の後期課程ができて2、3年目でした。自分たちが、新しい附属らしさのひとつを生み出すのだという気概に溢れた実行委員メンバーに囲まれ、生徒会のみなさん、先生方にご協力いただきながら、名称やテーマ、企画を創り上げていきました。「とげたん」というキャラクターも、その年に誕生しました。今年の兔原祭でも色々なところで目にしました。今では当たり前にあるものとして、変わらず愛していただけていることを、嬉しく思います。

実行委員長の経験を通して、多くのことを学びましたが、最も印象的だったことは、学校全体が一つのことに向かう力強さ、繋がりを、体感したことです。

明石校舎出身の私のことを知らない方も多かったと思います。兔原祭終了後、片付けの際や後夜祭で、「よかったよ」「ありがとう」とたくさんの方にお声がけいただいたことは、兔原祭でできた繋がりを感じ、驚きと嬉しさが、深く心に刻まれた体験でした。この感覚は、コーラス部の一員として、仲間と一緒に声を合わせていたこととも結びついています。本来はコーラス部での経験もご紹介したいのですが、ここでは書ききれないほど濃いので、他の方からのお便りで共有いただけることを勝手ながら楽しみにしております！

附属でのこのような経験は、今でも私の原動力になっています。一企業の社員として働いていますが、チーム、会社、社会としっかり繋がりを持って、生きていきたいと思っております。



Mariho Doi

在校時はコーラス部に所属し、第1回兔原祭の実行委員長も務めました。現在は東京で社会人生活3年目。



第1回兔原祭(2014年)

最近の社会の変化もあり、他の人と繋がるのが難しい環境もあることを知りました。そんな時に、いつでも頼りにできるのが、私たちの過去の経験だと思います。附属での経験が、必要な時に皆様の支えになるように願っております。その一部に、兔原祭も入っていらっしゃったら、関わった一人として、大変嬉しく思います。

■卒業生だより

齋藤 寛子さん [中等4回生]

卒業生のみなさま、元気でお過ごしでしょうか。4回生の齋藤寛子と申します。

5月下旬に会報の記事を書かないかとオファーをいただいてから、1ヶ月にわたり何を書こうか頭をひねらせたのですが、気づけば締め切り2日前になってしまいました。昔から、宿題を締め切りギリギリまで放置する癖が直りません。かといって締め切り間際に頑張る体力も持ち合わせていないので、高校時代は試験前夜に徹夜で勉強しようとするも寝落ちしてしまい、翌朝絶望するのがお決まりのパターンでした。ちなみに、小学校の卒業文集では「大きくなっても変わらなさそうな人ランキング」でクラス一位を獲得した私ですが、周りの友人には、大人になっても成長しないであろうことがすでにバレていたのでしょう。

そんな成長のない私も、4月から社会人になりました。新入社員が私一人だけ、という少々特殊な職場なのですが、毎日丁寧に指導してもらって、少しずつ仕事にも慣れてきました。そんな中、5月中旬に出張で中国に行き、ふと附属のことを思い出す機会があったので、それについて書こうと思います。

皆様ご存知のことと思いますが、中国ではインターネット通信が制限されており、VPNを利用しないかぎりLINEやTwitter、Googleといったアプリは使えません。思いがけず「デジタルデトックス」状態（強制）になり、ホテルの部屋で暇になった私が、「自分が中国という国を認識したのはいつだろう」と考えていたところ、小学3年生の時の、小林先生の社会科の授業を思い出しました。私の記憶が正しければ、「100円ショップのひみつ」という名前の単元で、100円ショップに行って製品がどこで生産されているかを調べてくるという宿題が出され、生徒はその製品の多くが「Made in China」であることに気づく。そして100円という低価格の背景には、世界の工場たる中国がいる、ということ学ぶ授業だったと記憶しています。この授業のことは今でもよく覚えているので、9歳の自分には100円という価格の裏にある事実が、相当な驚きだったのだと思います。国や地域によって人件費が異なることを知ったのも、私が「中国」という隣の国をしっかりと認識したのも、この授業がきっかけでした。

この100円ショップの授業のみならず、附属での学びは日常のふとした瞬間で思い出されることが多いです。授業での学びはもちろん、友人からもらった言葉や、先生からいただいたご助言を日常の中で思い出すたびに、自分という人間の根幹を成しているのは、やはり附属での12年間なのだと改めて感じます。23歳の今、昔の自分の未熟さを思い出し、恥ずかしくなる瞬間がしばしばあるのですが、そんな未熟でどうしようもない自分を受け入れてくれていたのだと思うと、附属の友人や先生方に頭があがりません。

つらつらと中身の無いことを書いてしまいましたが、いつの日か皆様と再会できるのを心待ちにしております。お元気で。



Hiroko Saito

在校時は吹奏楽部に所属。生徒会役員として、学校行事の運営に積極的に携わる。大学在学中にオランダに1年間留学し、この4月から社会人に。

寄付のお願い 母校の教育活動の支援のため、寄付へのご協力よろしく申し上げます。

附属学校部 HP : <http://www.schools.kobe-u.ac.jp/donations.html>



お問い合わせフォーム

■ 同窓会の活動に関して



<https://forms.gle/JyN9kAfL5IEN4boi7>

■ 広報誌に関して



<https://forms.gle/RyVcqmkeqy4ALDy5>

山本 拓弥先生

こんにちは、山本（拓）です。早いもので、新卒で附属中等に勤めて10年目になりました。1回生が6年生の時（2014年）からですので、ギリギリ全ての卒業生の顔を見たことがあります。どの回生とも濃淡はありましたが関わらせてもらうことができました。

1、2回生とは授業ではご縁がありませんでしたが、科学研究部の生徒は卒業後も関わってくれました。3回生は初任で初めて担任を持って、右も左もわからない山本を温かく受け入れてくれた思い出深い学年です。

4回生から8回生は選択授業を担当したので、全員ではありませんでしたがどの回生にも授業に行くことができました。4年目に数学から理科に変わったので、4回生は数学を、5回生からは理科（物化生地のどれのこともありました）を教えていました。回生や選択科目によってクラスのキャラクターも様々でした。

9回生は6年間を通じて担任を4回持ち、一番長く、深く関わった回生でした。9回生には語り尽くせないほど、一人ひとりと数多くの思い出があります。

ちなみに今の在校生は10回生から15回生ですが、14回生以外は学年全員の授業を担当したことがあります。山本も顔が広がってきました。

最近の本校の様子ですが、2020年度から3年生以上のKPの仕組みが大きく変わりました（7回生からは実際に経験していますね）。異学年で議論して研究の質をより高めることを目的として、3年生から6年生の4学年混合でゼミ活動を行っています（3456KPと呼んでいます）。

ここでは、3456KPで期待している「副作用」について紹介します。本校は7回生からは、原則として1学年120人3クラスの高校段階としては非常に小さな学校です。その中で、小さな居心地の良い人間関係の枠にだけに閉じこもらず、他の学年の多くの人とも新しい関わりを作っていってほしいと思っています。

KPの興味あるテーマが近いというだけで、1年間、他学年の生徒とも同じゼミに集められてゼミ活動を行います。自分の興味があることについて相談できる先輩/相談してきてくれる後輩という関係を作っていってほしいと思います。KP以外でも、部活動では元々縦のつながりがあったと思いますが、文化祭や体育祭、音楽祭の運営を端から見ると、学年が混ざって1つの目標に向かっており、より縦に広がった人間関係が生まれているようです。

附属中等では、18,000字の卒業論文を提出することは1回生以来全ての卒業生に課せられた共通のハードルです。KPは回生を超えても通じる附属中等の共通言語です。卒業生のみなさんもKPの経験を話題の種にして新しく回生を超えたつながりを作ってくれることを期待しています。

【編集後記】

こんにちは、皆様いかがお過ごしでしょうか。個人的には最近引っ越してきた家の湿度が高くて日々苦しんでいます。少し誇張しますがあえて附属で例えると、人がいっぱいいるときの部室みたいな感じです。ちなみに陸上部でした。誰かおすすめの除湿機があれば教えてくださいね。さて、5月の話ですが卒業以来初めて文化祭に行きました。素晴らしい寄稿があるため詳細は一切書きませんが、よかったです！不思議と10年前の淡い青春の記憶が蘇ってくるものです(笑) 皆さんもいつかまたぜひ！（1回生 金端）

（次号は9月30日発行予定です。）



Takuya Yamamoto

学生時代には学園祭の
実行委員会に所属。2014
年4月に本校に着任し、
今年度で10年目。

